

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		312-06-01	
事務事業名		陵南の森健康相談事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線1121	
担当部署名		陵南の森老人福祉センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	3	ともに支えあい 健やかに暮らせるまち		款	3	民生費
	施策	1	健康・医療		項	1	社会福祉費
	施策の方向	2	健康づくりの支援		目	5	老人福祉施設費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に居住する60歳以上の者					
	目的 (どうしたいか)	高齢者の健康増進を図る。					
	手段 (事業内容)	週3日、看護師が健康相談室にて老人の疾病の予防、治療に関する相談に応じ、適切な援助、指導を行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】
当初予算額	事業費	0	0	0	
決算額	事業費	0	0	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	健康相談開催日数	単位	日
指標の説明	健康相談を開催した日数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	133	130	130
実績	117	113	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	相談者数	単位	人
指標の説明	健康相談を受けた延べ人数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	1,800	1,800	1,300
実績	713	542	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
陵南の森老人福祉センターは老人福祉法に基づく国の通達である「老人福祉センター設置運営要綱」において老人福祉センターB型に分類される。老人福祉センターB型は健康相談に応じ、援助、指導を行うこととなっている。※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設使用人数の制限を行っているため、利用人数は減になっている。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
健康相談数が目標人数に達していないのは、健康相談事業についての市民の認知度が低い可能性があるため、今後、市民に対して、より一層周知するとともに気軽に相談できるよう取り組んでいく。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		332-03-01	
事務事業名		生きがい講座開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線1121	
担当部署名		陵南の森老人福祉センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	3	ともに支えあい 健やかに暮らせるまち		款	3	民生費
	施策	3	高齢者福祉		項	1	社会福祉費
	施策の方向	2	高齢者の健康づくり・生きがいづくりの推進		目	5	老人福祉施設費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に居住する60歳以上の者					
	目的 (どうしたいか)	高齢者の教養を向上させ、健康の増進及び脳の活性化をすることで、明るい生活ができることを目的とする。					
	手段 (事業内容)	毎年、歌謡教室・民謡入門講座・そろばんを使った脳トレ入門講座を実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 講師謝礼 164千円 【特定財源】 そろばんを使った脳トレ入門講座 受講料 9千円
当初予算額	事業費	359	379	370	
決算額	事業費	78	164	－	
	特定財源等	148	9	－	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	講座開催数	単位	回	
指標の説明	1年間で開催した延べ回数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		27	27	24
実績		6	10	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	受講者数	単位	人	
指標の説明	1年間で受講した延べ人数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		1,000	1,270	636
実績		303	116	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 生きがい講座は、高齢者の教養を向上させるとともに、高齢者が外出するきっかけ作りに役立っていることから、今後も引き続き実施していく。 ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設利用制限を行っている。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 受講者数が近年横ばいであるため、各講座の受講生の募集方法については、今後増加につながる手段を考えていく。